

高校生のインターネット依存に関する調査と 予防教育の実践

学籍番号 199212

氏名 佐藤 弘康

主指導教員 水野 治久

1. インターネット依存傾向を示す子どもたち

1節 A高校におけるインターネット・SNSトラブル

A高校においてネットいじめや不適切な動画の投稿等のSNSトラブルが年平均7, 8件程度起こっており、インターネットやSNSに関するトラブル予防教育が強く求められる背景がある。

今後、どの学校においても予防教育の実践が求められるが、その方向性は複数存在する可能性がある。各学校には各々の現状にあった予防教育が求められているのではないかと考える。

2節 インターネットに関する教育課題

内閣府（2021）の2020年度における高校生1,071人を対象とした調査によると、「インターネットを利用する」と答えた高校生の平日1日当たりの平均利用時間は267.4分、1日に3時間以上インターネットを利用すると答えたのは同年度で69.7%にのぼる。また、高等学校におけるいじめの認知件数は減少しているが、いじめの種類のうち「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」の件数は、2020年度には全体のいじめの19.8%を占め、2598件にのぼっている（文部科学省, 2021）。

現代の高校生に有用な予防教育を考察するために、A高校において、情報モラル・スクールエンゲージメント、SNSトラブルとインターネット依存の関連を調査した。

2. A高校における調査と予防教育の実践

1節 情報モラルとインターネット依存に関する調査

A高校において、情報モラルに対する意識尺度が新インターネット依存傾向尺度と、どのように関連を示しているのかを明らかにするため、270名の高校生を対象に2020年2月に調査を実施した。結果は表1のとおりであった。

情報モラルとインターネット依存に有意な強い相関は認められなかった。A高校においては情報モラルを高めても、インターネット依存にはほぼ効果がない可能性が示唆された。

表1 情報モラルとインターネット依存の相関係数

	過度なネット利用	ネットによる友人形成
トラブル回避	.053	-.035
健康維持	-.032	-.112
不正回避	-.108	-.195 **

** $p < .01$,

2節 スクールエンゲージメントとインターネット依存, SNSトラブルに関する調査

次にスクールエンゲージメント尺度がインターネット依存傾向尺度とどのような関連を示すかを明らかにするため, 817名の高校生を対象に2021年2~3月に調査を実施した。また, SNSトラブルについても検討し, スクールエンゲージメントとSNSトラブルの相関も検討した。結果は表2のとおりであった。

表2 スクールエンゲージメントとインターネット依存の相関係数

	インターネッ ト離れの困難	過剰なインター ネット利用	SNS トラブル
行動的エンゲージメント	.086 *	-.083 *	-.032
感情的エンゲージメント	.076 *	-.155 **	-.053
認知的エンゲージメント	-.112 **	-.026	.029

** $p < .01$, * $p < .05$,

スクールエンゲージメントとインターネット依存, SNSトラブルに有意な強い相関は認められなかった。A高校においてはスクールエンゲージメントを高めても, インターネット依存やSNSトラブル予防にはほぼ効果がない可能性が示唆された。

そこで, 本調査で測定したSNSトラブルを従属変数にし, 独立変数をスクールエンゲージメント, インターネット依存とする重回帰分析が実施された。結果は表3のとおりであった。

表3 スクールエンゲージメント, インターネットの依存がSNSトラブルに与える影響

変数名	SNSトラブル
行動的エンゲージメント	-.076
感情的エンゲージメント	-.002
認知的エンゲージメント	.104 *
インターネット離れの困難	.130 **
過剰なインターネット利用	.393 **
R^2	.221 **

** $p < .01$, * $p < .05$

インターネット依存傾向尺度の「過剰なインターネットの利用」はSNSトラブルに有意な正の影響を与えており, A高校において, インターネットの過剰利用の抑制に取り組むことでSNSトラブルを予防できる可能性が示された。

3節 予防教育の実践

2回の調査で得られた結果と考察を軸にして, 「高校生のスマホ断ち実践」をA高校, Cコース在籍の3年生22名を対象にして取り組んだ。3~4名のグループで, 「6時間のスマホ断ち」を実行してもらった。

結果, 自己申告ではあるが, 6時間の「スマホ断ち」に成功したのは22名中11名と5割に達した。3時間以上の「スマホ断ち」に成功したのは22名中14名と7割を超え, 一定の成果があったといえる。ただ, 30分と経たないうちにスマートフォンを使ってしまった生徒は22名中5名と2割を超えた。依存傾向が進行している生徒に対して, 予防教育が効果的であるかについては今後考察していく必要があり, 次回以降の課題となった。